HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	生産とロジスティクス : 役割／特色／今後も（講演者 吉本 一穂）
Author(s)	鈴木, 広人
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 8, 59-60
Issue Date	2019-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73623
Type	bulletin (article)
File Information	070-2186-9359-8.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

地域経済経営ネットワーク研究センター年報　第 8 号
北海道大学　2019 . 3

＜セミナー＞

生産とロジスティクス
－役割／特色／今後も－　（講演者 吉本 一穂）

鈴木　広人

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでは，5 月 11 日（金）セミナー「生産とロジスティクス－役割／特色／今後も－」を開催した。

セミナーでは，早稲田大学理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科の吉本一穂教授に講演を頂いた。吉本教授は，生産の場，モノの動きの合理的な設計をテーマとし，数理的技法を用い，国内外の多くの現場において生産性向上を手掛けられている。

本セミナーは，大きな変革を遂げている生産現場，ロジスティクスにおいて，今後どのようなアプローチ，手法が必要とされているかを考えようとしたものである。日本の生産現場では，継続的にカイゼン活動等が進められてきたことからその生産性は国際的に高い水準にある。これに対し近年では，ドイツが「インダストリー 4.0」と呼ばれる，情報化技術を活用した第 4 の産業革命を進めており，従来とは異なるアプローチ，手法が必要とされている。また，製品を配送するロジスティクスにおいても，近年のオムニチャネル化に伴う物流量増加，配送時間短縮，時間指定等によりその複雑性は高まっており，情報化技術を活用したアプローチ，手法が必要とされている。

講演では，生産，ロジスティクスの基礎的事項から，近年の動向，日本が目指す超スマート社会についてを詳細に語られた。基礎的事項としては，

製品ライフサイクルの短縮，陳腐化リスクの増大によって計画在庫ポイント（デカップリングポイント）が川上化し，生産活動のタイプ設計で施設計画，ロジスティクス設計が変わること，さらには在庫の量の設計で施設規模が変わることを説明いただいた。また，少品種多量生産から多品種少量生産へ移行することによって，ライン生産方式，セル生産方式，ジョブショップ生産方式といったように生産現場の施設，職場レイアウトが変わること。物的物流，配送部門のみの最適化を行う物流から，製品開発から調達，製造，配送，販売に至る社内的最適化を図るロジスティクス，各企業間の全体最適化を図るサプライチェーンマネジメントへと変遷してきていることを報告された。

近年の動向としては，「インダストリー 4.0」において重要な 3 技術であるロボット，IoT，AI の役割と関係性を説明頂くと共に，日本が目指す超スマート社会として「Society 5.0」についてと，物流がその実現の大きなカギとなること，そしてデータセンシング技術，ビッグデータ分析技術の重要性を述べられた。特にデータセンシング技術，ビッグデータ分析技術については，建設機器業界，自動車業界を例に，使用されている技術とその活用法，さらには今後の方向性について提示いただいた。

吉本教授が取り組まれてきたプロジェクトや実例を交えながらの 1 時間あまりの講演は，聴衆を引きつけ，最新の動向を学び，今後取り組んでいくべき課題を考える貴重な時間になった。

当日は，平日午後の時間帯にもかかわらず，他大学，民間企業等，多くのオーディエンスの参加を得ることができ，盛会かつ有意義なセミナーとなった。